

# 取組主体：有限会社 浅野農場

## 基礎情報

【所在市町村】当別町

【経営面積等】繁殖用母豚 150 頭、肉豚出荷頭数 3,600 頭／年

小麦 13ha、牧草 1.5ha、アスパラ 0.5ha、その他 1ha

【従業員】社員 7 名（うち障がい者 1 名）、パート 8 名

## 1 取組の経緯等

- 当別町で養豚業と畑作、豚肉の加工・販売業を営む浅野農場は、近隣に所在する北海道新篠津高等養護学校へ給食材料を納めていた関係から、同校農業科の体験実習受入れの要請に応じ、平成 23（2011）年に知的障がいを持つ当時 2 年生の生徒（当別町在住）を加工場を中心に 2 週間受け入れた。
- また、同生徒が 3 年生の時にも 1 ヶ月間受け入れた。その後、同校の進路指導の教諭から同生徒の就職依頼の相談を持ち掛けられ、同生徒が地元の者であること、実習を受け入れて十分な戦力になると判断できたことから、平成 25（2015）年 7 月より正規雇用を開始。

## 2 取組内容

- 知的障害者 1 名を普通雇用（月給制）し、週 6 日勤務で、月に 130 時間程度。1 日当たりでは平均 4～5 時間程度だが、日々の作業量に応じて柔軟に調整している。
- 日常的な通院はしておらず、生活支援等の福祉サービスは受けていない。
- 夏場は自転車通勤（約 14 キロ）をしており、冬場は最寄り駅から徒歩（約 4 キロ）により通勤している。
- 農作業全般に従事しており、農場内での農機具の移動、草刈り機による作業なども行うことができている。また、冬期は、同社の加工場にて作業に従事している。なお、安全面等の問題から養豚関係の作業は難しいと判断している。
- 当初は、障がいによる作業適性への不安もあったが、農業科の学習経験から畑作分野では十分な知識を有している。
- 重度の知的障害を有していることから、数字が読めない、記憶力が乏しい、こだわりが強いなどの多少の問題があるのは事実だが、色や線で作業内容を示す等工夫をすることで、必要な作業を十分にこなしている。
- 特に、ギフト商品用の化粧箱づくりや梱包などは、単調な作業に根気よく取り組むなど、貴重な戦力となっている。
- 教えたことは対応できるが、自分の判断があまりできない。水分補給や休憩についても、こまめにとるよう指導しているが、怒られると思って自主的にはとらないた



▲農作業の様子

め健康面で心配がある。

- 最初に面接に来たころから見ると、非常に明るくなった印象。また、農作業に従事する中で、体力もついたようである。
- 他の職員とのコミュニケーションは非常に良好で、職場内の人気者となっている。

### 3 取組のポイント等

- 雇用に当たり、厚生労働省のトライアル雇用制度を活用。
- 養護学校の教諭が定期的に農場を訪問し、障がい者に目標を与える等の必要なフォローアップを実施。過去に福祉施設から紹介を受けて障がい者を受け入れたことがあるが、どのような特性があるか分からない部分が多く、そういう面で養護学校の生徒は、学校から詳細な情報をもらえるため、安心して雇用することが可能。

### 4 障害者就労に関する展望、課題

- 雇用は継続していこうと考えており、勤務時間も延ばしていく予定。
- 障がい者の将来を考えると、生活が独立できるようになることが重要。今後の成長に資するため、原付免許を取得させることを計画中。人間的にいろいろな経験をさせてあげたいと考えている。
- 養護学校の農業科が廃止となったためか、同校からの要請はその後ないが、加工場の規模拡大を計画しており、その際は同校の生徒を1名程度雇用できればと考えている。

(この事例の問い合わせ先)

有限会社 浅野農場

電話 0133-22-4129

<http://www.asanofarm.com/>

調査時期 平成 27 年 9 月